

# Edition

旅すること

Life is like  
a long trip.

If you really want to accomplish something,  
you would take action.

And when you take a serious action,  
you will reach what you really want.

2





neon art exhibition Life goes on! @ Neon Art Gallery NEON FOREST JIJI 2016.1.15-2.7



harmonized @ HALE 2005.1

photographer Yuzuru Yoshikawa





# 旅すること

Life is like  
a long trip.

If you really want to accomplish something,  
you would take action.

And when you take a serious action,  
you will reach what you really want.

Edition INTERVIEW

#01

ネオンアーティスト

安彦哲男





2019年・冬。Edition編集部は、京都でネオンアーティストとして活動している安彦哲男さんを訪ねた。学生時代からバグひとつでヨーロッパの国々やアメリカを旅してきた経験を持つ安彦さん。旅は人生にどんな影響を与えたのか、アトリエ近くの桂川を散歩しながら「旅すること」についてお話を聞いた。

## 旅すること

Life is like  
a long trip.

If you really want to accomplish something,  
you would take action.  
And when you take a serious action,  
you will reach what you really want.

Q.若い頃いろんな国を旅されてきたとのことですが？

**安彦さん** パリ、ロンドン、ドイツ、イタリア、オランダ、それからアメリカのいろんな地方都市へ行きました。

Q.何か旅を始めるきっかけはあったんですか？

**安彦さん** 僕は小学校からサッカーが好きでずっとグラウンドを走り回っていたんですが、体育会系の体質が合わなくて大学3回生でサッカーをやめたんです。でもサッカーは好きだったので、一度外国でサッカーを観てみたいと思ったのがきっかけですね。

Q.旅での印象的な出来事がありますか？

**安彦さん** まず、最初に行ったパリでフランス人の女の子がフランス語を話しているのを見て驚きましたね(笑)。当たり前なことなんですが、それくらい自分は世界を知らなかったんです。そしてもうひとつ、長い旅を終えて日本に帰国した時、皆髪の毛が真っ黒なことに驚きました。外国ではいろんな色が溢れていますから。

Q.どんな旅だったんでしょう？

**安彦さん** いろんな出会いがありました。パリで偶然アフリカ出身の黒人やアメリカ人、ドイツ人ヒッピーと仲良くなり、彼らと一泊 300 円くらいの安い宿を借りて1ヶ月ほど滞在しました。国も肌の色も違う彼らと共に過ごす中で、世界はびっくりするくらい広いこと、何事も自分の物差しで判断できないことを学びましたね。ロンドンに行った時は予想もしないことが起こりました。パブでお酒を飲みながらテレビでサッカー観戦をしていたら「東洋人がサッカーがわかるのか？」と悪ガキ絡んできたんです。僕は「I love football, I can play, I have been playing for long time.」と中学で習った英語で言い返しました。後日彼らとプレイすることになりました。すると彼らよりも僕の方がうまいわけです。だって最近までやってきているんですから(笑)。それがきっかけで意気投合し、彼らのサッカーチームでプレイすることになったんです。最初は言葉がわからなかったんですが、一緒に過ごすうちになんとなく意思疎通ができるようになり、チームメイトの家を転々としながらタダで1ヶ月以上ロンドンに滞在しました。その後はサッカーの試合を追いかけてドイツ、イタリア、オランダへ。こうしたヨーロッパの旅で自分が行動を起こせば何かしらの面白い結果がついてくることを確信し、もっと旅をしてみたいと思いLAへ。普通に滞在するのも面白くないのでホームステイをすることにしました。そしたらいろんな偶然が重なりビバリーヒルズの有名なプロデューサーの豪邸にホームステイすることになって(笑)。





**Q. 旅は予期しないことが起こりますね。**

**安彦さん** そこが醍醐味だと思います。カリフォルニアやハリウッドで多くの個性的なアーティストと出会い、ずっと体育会系の中で育ってきた僕は「人生は楽しむためにある」ことに気づかせてもらいました。そんな中、メルローズにあるネオンショップでネオンと出会ったんです。

**Q. ネオンアートとの最初の出会いですか？**

**安彦さん** いえ、実は最初の出会いはロンドンなんです。サッカーの試合の後にみんなで飲みに行った時、ちょうど大きな寒波がきていてとても寒かった。そこにポワッと浮かぶネオンを見て「ああ、温かい灯りやなあ」っていうのが第一印象でした。でもカリフォルニアで出会ったネオンはロンドンとは違ってスカッとしていました。人から聞いてネオンショップに行ったらネオンアートの作品がいっぱいあって、そこで「わっなんや！」と心を掴まれました。それからは時間があるとネオンショップに通うようになってましたね。でもその時はまだ本気で作りたいと思っていたわけではありませんでした。その後バンクーバーの貿易会社で3年間働き日本へ帰ってきました。日本の企業に就職するも、体質に合わず退社。実家の染色工場を継いだのですがこれも無理とわかり工場を廃業しました。「本当に好きなことをしたい！」という想い、ネオンを使った「ものづくり」がしたいという想いが膨れ上がり、ネオンを学ぶために再びアメリカへ。そしてウィスコンシンにある小さなネオンスクールへ入学しました。

**Q. 旅をしたことで自分の生き方をみつけたと？**

**安彦さん** ライフワークであるネオンと出会ったことは大きいと思います。インターネットや SNS のない時代の一人旅は自分の感覚を信じて、出会う人たちと真剣にコミュニケーションをとり情報を交換し動く日々でした。そんな旅を経験できたから今があります。すごく無駄のある時間のかかった旅、そんな旅があってもいいんじゃないでしょうか。

**Q. これからも旅は続けますか？**

**安彦さん** 僕にとって、旅は人生の一部ですが人生もまた旅です。1989年から京都を拠点に、お寺や美術館、工事現場など様々な場所で、光、鉄、絵画を使って空間を創造する表現活動をしています。現在は「宇宙を覗く隙間を探す」というテーマで作品を創っています。昨年、京都の山奥にネオンアートミュージアムを創りたいという気持ちが芽生え家を売却し動き始めました。これからまた新しい旅が始まる気分です。

**安彦 哲男** ネオンアーティスト

京都生まれ。小学校在学中、上京美術研究所で、油絵を学ぶ。  
全国学生油絵コンクールに於いて特賞1回、入賞2回。  
中学、高校時代はサッカーに明け暮れる。  
高校時代に国体出場。  
大学時代にヨーロッパ放浪。

1980 LOS ANGELES 遊学。  
1981 VANCOUVER の貿易会社に入社  
1984 帰国。稼業の染色工場の経営をはじめ、様々な仕事を経験。  
1988 再渡米。WISCONSIN NEON SCHOOL 入学。  
1989 帰国後、アート活動を始める。



website



Instagram

ネオン フォレスト ジジ (NEON FOREST JIJ)  
京都府京都市中京区池元町 408-20-46  
営業時間：17:00 ~ 25:00 定休日：月曜日



## Edition

4月号 No.2

2019年4月発行

発行人/佐藤大輔

発行/株式会社 宅配広告社

〒164-0013

東京都中野区弥生町 4-25-4

南中野天野マンション1階

TEL.03-5328-1700

FAX.03-5328-1715

<https://takukou.co.jp>

無断転写、複製、複写の一切を禁ず

Contact

[edition@takukou.co.jp](mailto:edition@takukou.co.jp)

## Staff

Editor & writer

Haruka SUZUKI

Photographer

H.SUGI

Kazuki NAKAMURA

Director

Eisaku CHINDA

Yuta ISHIMURA

Special Thanks

Tetsuo ABICO

Yuzuru YOSHIKAWA

Daisuke SATO

Kazuaki ISHIMURA



1983年の創業以来、たくさんのお客様のご要望に応えるべく、配布エリアの拡大、配布方法の見直し、配布スタッフの教育・指導を基本に、今日までポスティング事業を続けてくることが出来ました。デジタル時代の大きな流れの中、各クライアント様に限らず様々な業界で、“手に触れる”広告媒体に対する費用対効果を真剣に考えております。そこでまさに今、その広告媒体の手法としてポスティングが再度注目を集めております。私たちは創業以来33年間蓄積してきた配布実績とデータに加え、国勢調査を元にした年齢別・世帯数別などのデータマップなどを駆使し、各丁目ごとの人口世帯分析を行ったエリアマーケティングをご提案することで、ポスティングの反響率を上げ、それが即ち費用対効果を上げることになり、お客様のご要望に応える事が出来ると確信しております。平成27年9月、長年拠点とした渋谷区代々木から、業務拡大の為、中野区弥生町に本社事務所を移転し、「地域に根ざした企業」を念頭に従来のお客様を大切にしながら、新しい業界の企業様にもポスティングを知っていただき、それが各クライアント様の業務のサポート、ひいては売上向上のサポートに繋がっていただけるよう、これからも企業努力をまいります。

代表取締役 佐藤大輔

# 宅配広告社の広告です。



宅配広告社

配布スタッフ（アルバイト）募集中！  
広告主募集中！

お問い合わせ先

**☎03-5328-1700**

株式会社 宅配広告社 採用担当 / 石村

Enjoy your trip!

TAKE  
FREE

ご自由に  
お持ち帰  
り下さい。